



CIAM Chronicle Vol.3

新センター長就任にあたって

社会資本アセットマネジメント技術研究センター センター長
高木 朗義

平成22年4月より八嶋先生の後を引き継ぎ、センター長を務めることになりました。みなさんご承知のとおり、本センター（CIAM）はMEの養成とアセットマネジメント技術の開発を軸にして、約1年8ヶ月活動をしてきました。その結果、現在までに45名のMEを認定し、シンポジウムや成果報告会を開催すれば毎回会場が満員になる盛況振ります。また、ME1期生が中心となって「社会基盤メンテナンス手帳－ME君の点検十訓－」が出版され、国際学会でもME養成の活動報告が注目を集めるなど、予想を遥かに上回る成果を挙げています。このような状況の中でセンター長に就任するのは重責ですが、みなさまのお力をお借りしながら、CIAMの更なる発展を目指して努力していく所存です。私のセンター長就任に対し一番エールを送ってくれるはずだったのは、平成21年9月に急逝された故上田孝行東京大学教授です。CIAMとしても4月23日にはメモリアルシンポジウムを開催する予定です。上田先生のご冥福をお祈りするとともに、これからも上田先生の志を心にとめながら頑張っていきたいと思っております。



センター長としての使命は第一にMEが岐阜県内はもちろん、全国各地で活躍できるように展開していくことです。これにはCIAMだけでなく、MEの会を中心にME自身も頑張らなければなりません。また行政・業界・住民とも連携・協働して活動の場を広げていく必要があります。MEの実力が周知されていけば、全国各地でMEを養成して欲しいという声が挙がるでしょう。そうすればME養成講座の全国展開や恒久化への道が開かれます。そのためには、これまでに構築してきたME養成講座のカリキュラムやその内容をテキスト化することが必要です。ME養成講座の講師は最高の布陣を擁しています。その講師陣が作成した講義資料をテキスト化すれば、アセットマネジメントに関する良好な教科書になるに違いありません。一方、MEの養成には教科書の利用、すなわち座学によって習得可能な技術だけではなく、フィールド実習が不可欠です。座学は教科書があれば全国どこでもできますが、ME養成のためのフィールド実習は岐阜県以外ではできません。八嶋前センター長がいつも言われているように、岐阜県は、北は3,000m級の山岳地帯から南は0mの低平地が広がり、4,200kmの県管理道路を始めとして数多くのインフラが存在し、また土砂・洪水・地震など様々な災害が頻繁に発生するという日本の縮図のような地域です。このような県土の特徴を活かし、岐阜県土並びにそこに存在するインフラを全国のME養成、さらにはアセットマネジメント研究の対象として活用することができれば、多くの技術者・研究者にとって非常に良い機会となるでしょう。どこまでできるかわかりませんが、もとより微力ですが、CIAMの発展に尽力していく所存です。どうかご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

Contents

新センター長就任にあたって	1
MEの会発足について	2
第3期（平成21年度後期）ME養成講座報告	2
社会基盤メンテナンスエキスパートの顔ぶれ（第3期）	3
「観光ナガサキを支える“道守”養成ユニット」平成21年度成果報告会報告	4
「社会基盤メンテナンス手帳－ME君の点検十訓－」発行について	4
平成22年度前期活動予定	4
平成21年度後期活動記録	4

MEの会発足について（MEの会 会長 安藤健太郎（ME1号））

1. 「MEの会」発足の経緯

私たち社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）は、昨年の10月に「MEの会」を発足しました。「MEの会」とは、CIAMが主催するME養成講座を受講しMEと認定されたもの、および受講修了を認定されたもので構成されており、現在までに45名が所属しています。養成講座を修了しMEとなったものは、その習得した知識をいかにしながら、それぞれが個人で活動することとなります。しかし、ME個人では活動内容が限られますし、お互いの活動情報を知る機会もありません。また、ME個人がばらばらで活動しては、コンサルタント・建設会社・役所という垣根を越えつつながらも、十分に生かすことができません。そこで私たちMEは、所属の異なるすべてのMEが地域社会に貢献するために、確固たる同じ理念に基づいて行動する必要があると考え、「MEの会」発足に至りました。

「MEの会」の目的は、今後急速に増大する高齢化社会資本の長寿命化および地域住民の社会資本に対する帰属意識高揚の促進を図り、もって地域住民の安全・安心の向上および地域経済の健全な発展に寄与することです。また、自己研鑽の場やME間での情報共有を図ることも目指しています。

2. 「MEの会」活動内容

本会では、活動のテーマとして以下の3つを掲げています。

- (1) アセットマネジメントに関する情報の収集、提供及び普及啓発
- (2) アセットマネジメントに関する講習会、講演会、研修会の開催
- (3) メンテナンスサポーターへの指導、助言

なかでも、「岐阜県橋梁点検マニュアル改訂に伴う試し点検」は岐阜県（県土整備部道路維持課）より「MEの会」に対して初めての協力依頼された活動でした。これは、岐阜県が改訂作業を進めている「橋梁点検マニュアル」に基づき実際に試し点検を行うことで、判断基準や健全度の設定に問題が無いか、また点検者が判定しやすい内容となっているか等を検証するものでした。



岐阜県協力依頼点検（H22.1.19）
「橋梁点検マニュアル改訂に伴う
試し点検」



勉強会（H22.2.3）
「橋梁点検マニュアル改訂について」



現場見学会（H22.2.26）
「発泡ウレタン軽量盛土工法」

第3期(平成21年度後期)ME養成講座報告

第3期の募集においても、第1期、2期と同様に、定員を上回る20名の募集があり、応募資料による厳正な審査の結果16名の受講者を決定しました。平成21年8月24日より講義が開始され、9月18日に無事講義が終了しました。講義は、第2期と同様に、週5日4週間の集中講義形式で行われました。全受講者は、全講義を欠席することなく受講を終えて、10月19、20日にME認定試験を実施し、10月6日に第3期ME認定者（14名）が誕生しました。



歩道橋の健全度の調査。ME2号の乾さんが説明されています。



ME認定試験プレゼンテーション審査の様子。短時間に的確なプレゼンが求められます。



↑ME養成講座での故上田先生の講義風景。いつも汗びっしょりになりながら熱く語っておられました。ご冥福をお祈りいたします。

社会基盤メンテナンスエキスパートの顔ぶれ（第3期）



【ME32号】
 名前：岩田 昌司
 所属：(株)三栄コンサルタント
 勤務エリア：岐阜土木事務所
 得意分野：コンクリート構造物



【ME33号】
 名前：岩本 拓也
 所属：(株)飛州コンサルタント
 勤務エリア：高山・古川・恵那土木事務所
 得意分野：防災、構造物、森林



【ME34号】
 名前：太田 均
 所属：国土交通省中部地方整備局
 勤務エリア：東海地区
 得意分野：道路管理全般



【ME35号】
 名前：岡田 信彦
 所属：大垣市役所
 勤務エリア：大垣土木事務所
 得意分野：道路維持事業



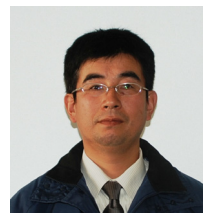
【ME36号】
 名前：加藤 知也
 所属：岐阜県恵那土木事務所
 勤務エリア：恵那土木事務所
 得意分野：道路維持全般



【ME37号】
 名前：苅谷 仁史
 所属：岐阜県美濃土木事務所
 勤務エリア：美濃土木事務所
 得意分野：舗装



【ME38号】
 名前：後藤 算悟
 所属：青協建設(株)
 勤務エリア：美濃土木事務所
 得意分野：法面補修・補強



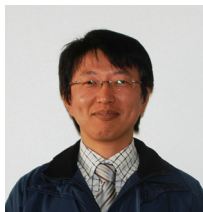
【ME39号】
 名前：佐藤 正晴
 所属：(株)柳組
 勤務エリア：古川土木事務所
 得意分野：コンクリート・土構造物の施工



【ME40号】
 名前：辻 正臣
 所属：(株)桑原工務店
 勤務エリア：大垣土木事務所
 得意分野：河川砂防・治山事業



【ME41号】
 名前：則竹 博明
 所属：大日コンサルタント(株)
 勤務エリア：岐阜土木事務所
 得意分野：道路分野(舗装)



【ME42号】
 名前：古田 修
 所属：(財)岐阜県建設研究センター
 勤務エリア：岐阜土木事務所
 得意分野：下水道



【ME43号】
 名前：松井 智一
 所属：岐阜県可茂土木事務所
 勤務エリア：可茂土木事務所
 得意分野：河川



【ME44号】
 名前：南 賢太郎
 所属：(株)南組
 勤務エリア：高山土木事務所
 得意分野：河川・道路工事の維持管理



【ME45号】
 名前：安江 成弘
 所属：岐阜県県土整備部
 勤務エリア：岐阜土木事務所
 得意分野：道路斜面の維持管理

「観光ナガサキを支える“道守”養成ユニット」平成21年度成果報告会報告 (CIAM 客員教授 村田芳信)

平成22年3月11日午後ホテルセントヒル長崎で開催された標記報告会に参加しました。報告会では、長崎大学インフラ長寿命化センター森田准教授の活動報告に続き、“道守補助員”、“道守補”、“特定道守”、“道守”の順で体験報告がありました。後半の基調講演は、まさにその課題解決に向けた先駆的な活動を進められている方々の講演で、タイトルと講演者は次のとおりです。

「新たな公としての道守活動の役割」 榎木武(財団法人福岡アジア都市研究所)

「コンクリート2次製品業界は道守・環境・長寿命化をいかに貢献するか」 鶴田 健(マテラス青海工業㈱)

「胸躍る時代が来た、地産地消－業種を離れた垂直統合」 金子 誠二 (大成建設㈱)

全体を通して、“道守”に託す地域再生に向けた新しい社会基盤の維持・管理・更新のあり方に対する方向が暗示されるような、興味深い報告会でした。今後は、階層教育を通じた人材が、いかに連携して活動できる体制を構築できるかにかかっているように思いました。この点は、岐阜のユニットもまったく同様の課題を抱えており、それぞれ特徴を生かした取り組みとともに、より緊密な情報交流が不可欠であると思われました。(詳しい報告はCIAMウェブサイトをご覧ください。)

「社会基盤メンテナンス手帳 -ME君の点検十訓-」 発行について

様々な社会基盤構造物の点検業務において留意して「見るべき」項目をわかりやすく解説するという趣旨で、ME 15名により、「社会基盤メンテナンス手帳 -ME君の点検十訓-」を刊行しました(技報堂出版:1,800円+税)。構造物ごとに重要な10項目を点検十訓とし、それぞれの項目に簡単な解説文を付記しました。維持管理の最前線で活躍される技術者の方々はもちろんのこと、一般の方々にも、社会基盤の点検業務の大切さを理解していただけるよう編集しています。書店で手に取り是非ご覧ください。本書に関するお問い合わせはセンター事務局までお願いいたします。



平成22年度前期活動予定

月 日	概要
H22.3.29~4.16	第4期(平成22年度前期)社会基盤メンテナンスエキスパート申請書受付
H22.4.1	社会資本アセットマネジメント技術研究センター長交代。(八嶋厚教授より高木朗義教授へ) 八嶋先生、センター設立以来2年間ご尽力いただきありがとうございました。(スタッフ一同)
H22.4.23	文部科学省科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成シンポジウム 「暮らしの安全と地域再生への挑戦 -地域の道をみんなで守る-」の開催。
H22.5.17~6.11	第4期(平成22年度前期)社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座

平成21年度後期活動記録

月 日	概要
H21.8.24~9.18	第3期(平成21年度後期)社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座開講
H21.9.25	文部科学省科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成シンポジウム 「暮らしの安全と地域再生への挑戦 -『鉄の橋』を守る技術-」の開催。(参加人数:290名)
H21.10.23	MEフォローアップ研修(根尾黒津地すべり災害復旧の見学会)実施
H21.10.28, 29	建設技術フェア in 中部2009 出展
H21.11.6	第3期(平成21年度後期)社会基盤メンテナンスエキスパート 授与式
H21.11.12	県・市町村建設技術職員講習会「橋梁維持管理研修」共催(主催:(財)岐阜県建設研究センター)
H22.2.3	平成21年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)成果報告会開催。(参加人数:200名)
H22.2.3	MEの会 勉強会(岐阜県橋梁点検マニュアルの改訂に伴う試し点検の実施について)
H22.2.25	社会基盤メンテナンス手帳-ME君の点検十訓- 出版(技報堂出版,1,800円+税)
H22.2.26	MEフォローアップ研修(発泡ウレタン軽量盛土工法)実施
H22.3.6	International Symposium on Social Management Systems 2010(SSMS2010,高知)にてMEの活動を発表
H22.3.11	MEフォローアップ研修(鷺田橋床版面損傷調査)実施

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学社会資本アセットマネジメント技術研究センター(<http://www1.gifu-u.ac.jp/~ciam/>)
Tel. & Fax.:058-293-2419 E-mail: ciam-secretary@gifu-u.ac.jp